

主 題：偽善の罪

聖書箇所：マルコの福音書 12章 13-27 節

ユダヤ人の指導者たちは心頑なでした。彼らは何とかイエスを陥れようと計ります。指導者たちはイエスに対して三つの質問をしますが、それらはすべてイエスを陥れるためのものでした。一つ目はイエスの権威に関するものでした。イエスの行いは何の権威によるのだと。指導者たちは神を恐れず、人を恐れていました。今日は次の質問を見てゆきます。

2. 納税に関する事について 13-17 節

これも指導者たちの巧妙なわざです。13 節は行ないにおいての嘘です。「パリサイ人とヘロデ党の者数人をイエスのところに送った。」とありますが、並行記事のマタイ 22 : 16 には「彼らはその弟子たちを、ヘロデ党の者たちといっしょにイエスのもとにやって、」と書かれています。自分自身では行かなかったのです。14 節はことばにおいての嘘です。「…私たちは、あなたが真実な方で、だれもはばからない方だと存じています。あなたは人の顔色を見ず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです。」と、この通りなら彼らはイエスを信じるはずです。イエスを油断させようとするわなです。

この当時、イスラエルの人々はローマに税金を納めていました。地稅、所得稅、人頭稅がありました。人頭稅はそれを納めさせるために、住民登録、人口調査を行なうのです。ヨセフとマリヤが登録のためにベツレヘムに行ったのもこのためです。ガリラヤ人のユダはこの徵稅に反対していました。使徒 5 : 37 「その後、人口調査のとき、ガリラヤ人ユダが立ち上がり、民衆をそそのかして反亂を起こしましたが、」とあります。また、ヘロデ党とはヘロデ王朝を支援するグループです。しかし、ヘロデ王はユダヤ人ではありませんでした。エドム人の子孫です。14 節の質問に対する答えは YES でも NO でも問題があると彼らは企んでいるのです。しかし、イエスは彼らの偽装を見抜かれています。15 節から、デナリ銀貨には皇帝の肖像が刻まれています。ローマ皇帝崇拜のシンボルです。

イエスの答えは明確です。16, 17 節にあるとおりです。「カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」と。ここでイエスは国家に対する責任を教えてください。「返す」とは責任です。国民としての義務を果たすことです。それはクリスチャンとしても同じです。同時に、神の民としての責任をイエスは言われています。カイザルは人間であるから、神としての崇拝はふさわしくないと。1 ペテロ 2 : 17 「すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。」とあるとおりです。

3. 復活について 18-27 節

サドカイ人は復活を信じていませんでした。ユダヤ人社会では裕福な層に属し、自分たちの利権のためにもローマを認めていました。おもに祭司の職についていました。そして、彼らはモーセの 5 書のみを信じて、口伝律法や伝統などは用いません。使徒 23 : 8 には「サドカイ人は、復活はなく、御使いも霊もないと言い、」とあります。

18-23 節の質問は申命記 25 : 5-10 にありますが、彼らは復活後も地上の生活の延長だと考えているのです。モーセ 5 書を信じているといいながら、彼らは聖書がわかっていません。26 節は出エジプト 3 : 1 からの出来事で、「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」は 6 節が引用されています。これは神との個人的な関係を現わします。「～神である」は現在形です。これは死んだ後でも継続されてゆくことです。死は神との関係を破るものではありません。神との交わりのうちにあることは永遠のものでした。イエスはこのことをサドカイ人が信じているモーセ 5 書から話されました。救いを失うことは決してないのです。救われた者は神とともに永遠を生きるのです。「神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。」と 27 節にある通りです。

このようにイエスを陥れようとするユダヤ人指導者たちの偽善の行為は、イエスによって「あなたがたはたいへんな思い違いをしています」と諭されました。しかし、彼らは悔い改めることはありませんでした。私たちも考えましょう。永遠をどこで過ごすのかです。神は私たちの心の動機を見ておられます。